



舞鶴市立明倫小学校
令和8年6月30日

7月号



認め合い、支え合い、つながり合う学校に

梅雨明けの便りが待たれる頃となり、日ごとに夏の日差しの強さを感じる季節となりました。梅雨の晴れ間には、校庭いっぱいに子どもたちの元気な声が響き、本格的な夏の訪れを感じています。早いもので、1学期も残すところあと3週間となりました。子どもたちは、来る夏休みを楽しみにしながら、1学期の学習や生活のまとめに一生懸命取り組んでいます。

スクールビジョン「つながる力」 一人一人の良さを認め合い、安心して学ぶことができる学校

6月は「いじめ防止強化月間」でした。いじめは決して他人事ではなく、誰もが当事者になり得る問題です。一人一人が相手の気持ちを考え、お互いの違いや良さを認め合うことが、安心して過ごせる学校づくりにつながります。

この期間、放送委員会では「全校いいことだより」の取組を行いました。友達にしてもらって嬉しかったことや、友達の素敵などところを書いてポストに入れると、お昼の放送で紹介されます。給食時間には、放送委員の優しい声とともに、たくさんの温かいメッセージが校内に届けられました。「3年生の〇〇さんからのおたよりです。休み時間に〇〇ちゃんが『一緒に遊ぼう』と誘ってくれてうれしかったです。」

このような言葉が全校に広がり、学校全体が温かな雰囲気になりました。友達の良さに気づき、それを言葉にして伝えることの大切さを改めて感じる機会となりました。

ところで、現在行われているサッカーワールドカップでは、日本代表の長友佑都選手がチームメイトに向けて語った「本当に世界一の団結力だと思う」という言葉が大きな話題となりました。その言葉には、試合に出る選手だけでなく、ベンチで仲間を支える選手やスタッフも含め、全員が一つの目標に向かって力を合わせていることへの感謝と信頼が込められていたそうです。

私は、この言葉が本校の目指す姿にも重なるように感じました。学校でも、一人一人がそれぞれの良さや得意なことをもっています。目立つ場面で活躍する人もいれば、友達を励ましたり、困っている人にそっと声を掛けたりすることで周りを支えている人もいます。どちらも学校にとって大切な存在です。

いじめ防止強化月間の取組を通して、私たちは改めて、一人一人の良さに目を向け、「ありがとう」「大丈夫?」といった温かい言葉の力

を実感することができました。これからも互いを認め合い、支え合いながら、長友選手の言う「世界一の団結力」に負けないくらい、仲のよい明倫小学校をみんなで築いていきたいと思います。

今月も、地域・保護者の皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

校長 岡本 恵理子・教職員一同



全校みんなのために頑張ったプール掃除

